

新町 創成期の 仕上げの年

合併後四年目を迎え
新町としての節目の年
3月5日、
三輪茂町長は
「第1回日高町議会定例会」において
町政執行方針を述べ
行政運営に対する
決意を表明しました。

平成21年第一回日高町議会定例会の開会にあたり、町政執行につきまして、私の所信を申し述べさせていただきます、町民の皆様をはじめ議員各位の御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

平成21年度は、合併後4年目となり新町としての創成期の最終年として節目の年となるものであります。

本年度は、「町民と行政との協働」「地域の特性を活かす」「自助と自立」の3本柱を基本姿勢とした「日高町総合振興計画」の2年目となります。新しい発想、創意と工夫を凝らした個性と魅力あるまちづくりに取り組み、目指す将来像「いきいきと働き、学び、安心と笑顔で暮らせるまち」に向け、時代の変化を的確に捉えながら、着実にまちづくりを推進してまいります。

平成21年度の我が国の経済については、世界的な景気後退が続く中で、内需、外需ともに厳しい状況が続いておりますが、「新経済成長戦略」等により、内需主導の持続的成長が可能となるよう経済の

体質を転換し、状況に応じて果敢な対応を機動的かつ弾力的に行うこととしております。

このような中であって、国においては平成21年度の地方財政対策として、景気後退の勢いが強まり、地方交付税の原資となる国税の大幅な減収が見込まれる中ではあります。雇用創出などの経費を上積みするなど、地方交付税を4千億円以上増額しており、地方の実情に対して一定の配慮がなされたものと考えます。

しかしながら、今回の対策は、財源不足の多くの部分を臨時財政対策債において約5兆1千億円、前年度比81・7パーセントの増額によりまかなわれているものであり、厳しい地方の財政状況にあつて今後は、税源移譲等の抜本的な国の地方財政対策を望むものであります。

平成21年度の日高町一般会計予算につきましては、日高町総合振興計画の実施計画を基本に最重要課題に重点配分をした結果、101億6千万円で前年に対し2・8パーセントの増となったものであり

ますが、財政健全化計画を指標として財政の健全化に向けた取り組みを進めてまいります。

平成19年度から取り組みを進めております行政改革につきましては、平成20年度に各種施設使用料の見直しに向けた検討を進め、本年4月から新たな使用料によりご負担をお願いすることとしております。各施設の維持管理経費の一部として使用させていたいただきますので、皆様のご理解をお願いいたします。

平成21年度におきましては、行政改革の一環として、門別老人ホームの民営化を進めてまいります。各種事務や業務等におきましても、民間にお願いできるものは民間委託等を進めるとともに、既に民間委託されている業務等につきましては、更なる見直しを進めてまいります。また、人件費の抑制につきましては、職員定数管理計画に基づき、職員数の適正化を進めてまいります。



地域産業の振興

次に主要な施策の推進について申し上げます。
はじめに、地域産業の振興について申し上げます。

◎農業の振興

稲作につきましては、米の市町村需要量に関する情報及び米穀の生産調整実施要領に基づき、平成21年度の生産米数量が前年並みの2400トに決定したところであります。

す。今後も農業者、農業関係団体と一体となり、消費者ニーズに対応した安全で食味の良い米作りを推進してまいります。
水田農業構造改革対策につきましては、これまでの制度を踏襲した新たな制度として、国産農産物の安定供給を確立するため、水田等の有効活用による自給率・自給力の向上を目的とした「水田等有効活用促進交付金」「産地確立交付金」等の助成措置が、

本年を初年度として3か年計画で開始されることとなります。従来からの方針である転作物物の定着促進と産地形成、担い手の育成等農業経営の安定化に向け、新制度と道単独事業の「地域政策総合補助」等の有効活用により、軽種馬及び水稲経営の経営転換や複合経営を推進してまいります。

施設野菜につきましては、作付面積・生産量ともに順調に増加しており、今後とも振興作物として位置づけ、安全で安定した供給を推進してまいります。

さらに、町外からの新規参入者促進のため、新規就農者対策や農業後継者花嫁・花婿対策を推進してまいります。

平成20年度から実施している畜産担い手育成総合整備事業（農業開発公社事業）は、本年度総事業費2億6700万円による草地整備事業などを行い、平成21年度以降も順次実施してまいります。

◎酪農業の振興

酪農につきましては、世界経済の混乱、景気の悪化により酪農を取り巻く環境は激変

しておりますので、更なる経営の安定を確立するために飼料生産の協業化を促進してまいります。

肉用牛では、町内の生産農家戸数が増加し、黒毛和牛繁殖牛頭数が千頭を超えております。引き続き優良肉用牛繁殖素牛導入事業により、町内における優良黒毛和牛群を形成するとともに、育成技術の向上を図り、新規・既存の肉用牛経営を推進してまいります。

◎軽種馬の振興

軽種馬につきましては、より強い馬づくり・売れる馬づくりを実践できる環境整備を図るため、競走馬生産振興事業を活用した集団を形成し、経営基盤の安定を目指します。また、農家経営の健全化に向けて、肉用繁殖牛導入等の複合経営又は経営転換を促進してまいります。

◎ホッカイドウ競馬

平成20年度のホッカイドウ競馬は、馬インフルエンザによる開催中止といった事故もなく、計画どおり82日間の日程で実施されました。前年対

比95・56パーセントの発売額となりましたが、当初見込んでいた5・5億円の赤字額は、5億円程度に圧縮される見込みであります。

新生北海道軽種馬振興公社は、北海道から競馬開催を委託し、いよいよ本町を拠点として、待望の産地競馬が開催されます。5月20日から門別競馬場でナイター競馬がスタートいたしますが、本年度は「北海道競馬改革ビジョン」で示されている「収支見通し及び年次別の取組」の中間年にあたり、赤字額を3億円以内に圧縮し、翌年度は収支を均衡させなければならず、正に正念場の年であると厳しく受け止めております。

競馬場のある町として、ホッカイドウ競馬の更なる発展を願い、振興公社へ職員を派遣するなどの人的支援を含め、管内各町、農協及び関係機関と連携しながら売上げ増加に向けて最大限の取り組みを進めてまいります。

◎水産業の振興

水産業につきましては、静内対空射撃場周辺漁業用施設整備事業による厚賀漁港の製